



募集代理店

 中央三井信託銀行

引受保険会社

 アクサ生命保険株式会社



2008年度
特別勘定の現況
(世界分散型40CM(512)/世界分散型20CM(513))
決算のお知らせ

ご契約者の皆様へ

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
さて、弊社は去る3月31日に決算を迎えましたので、ここに特別勘定の運用
状況をご報告申し上げます。
今後とも何卒ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

ホームページアドレス <http://www.axa.co.jp/life/>
お問い合わせ先 **0120-375-193**

* 受付時間: 平日9:00～17:00(土・日・祝日および12月31日から1月3日は休業とさせていただきます。)

 中央三井アセットマネジメント
Chuo Mitsui Asset Management Company, Limited

【利用する投資信託の委託会社】 中央三井アセットマネジメント株式会社

中央三井アセットマネジメント株式会社は、1999年7月に三信投資顧問株式会社と中信投資顧問株式会社が合併して誕生した投資信託委託会社です。現在、投資信託委託業務を中心に個人および法人のお客様に多様な商品サービスを提供しており、変額個人年金保険向け投資信託については特に力を入れています。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「保証金額付特別勘定年金特約(終身型)付変額個人年金保険(06)」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「保証金額付特別勘定年金特約(終身型)付変額個人年金保険(06)」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」、「商品パンフレット」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、ファンドの資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等をしていきますので、合計等と合致しないことがあります。

保証金額付特別勘定年金特約（終身型）付変額個人年金保険（06） 特別勘定の現況（2008年度）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2008年4月 ~ 2009年3月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、下落しました。TOPIX(東証株価指数)は前期末比 36.22%下落の773.66ポイント(前期末は1,212.96ポイント)で終了しました。

6月初旬にかけて、米株高や円安進行を背景に一時1,400ポイント台まで上昇しました。しかしその後は、資源価格高騰による企業収益圧迫懸念などから下落に転じました。9月に入ると米大手証券の経営破綻を受けて金融システム不安が再燃し、金融市場は大混乱となり急落しました。その後は、金融不安の実体経済への波及や円高進行が嫌気される一方、各国の経済対策への期待が交錯し、安値圏で変動の激しい展開となりました。3月には一時700ポイントを割込み、バブル崩壊後の安値を更新しました。

業種別(東証33業種)では、円高・原油安等によるコスト低下期待から「パルプ・紙」(前期末比 5.18%)の下落率が限定的だった一方、軟調な海運市況を背景に「海運業」(同 61.35%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、下落しました。NYダウは前期末比 37.95%下落の7,608.92ポイント(前期末は12,262.89ポイント)で終了しました。5月中旬にかけて堅調な推移で始まったものの、その後は米政府系住宅公社(GSE)の破綻懸念や米大手証券の経営破綻を契機に急落しました。11月以降、オバマ次期米大統領の経済対策への期待などから一時的に反発する局面もありましたが、米自動車会社の経営危機などから引き続き景気後退が懸念され、概ね軟調な展開となりました。

欧州株式市場は、下落しました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比 31.15%下落、仏CAC40は同 40.36%下落、独DAXは同 37.49%下落となりました。世界的な金融不安の深刻化などを背景に、概ね米国同様の動きとなりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、期初の金利上昇後は低下基調で推移し、当期末の新発10年国債利回りは1.340%となりました(前期末は1.275%)。

資源価格高騰による世界的なインフレ懸念を背景に金利は上昇基調で始まり、6月に一時1.9%近傍まで上昇しました。その後は、金融不安を背景とする世界的な景況感の悪化や金融緩和策の実施、4-6月期以降連続してマイナスとなった実質GDP成長率など軟調な国内経済指標を受けて、12月には1.1%台まで低下しました。期末にかけては、追加経済対策に伴う国債需給悪化懸念を嫌気した債券売りが台頭し、1.3%前後の狭い範囲で採み合いながら推移しました。

日銀は、前期末年0.5%であった政策金利を当期末までに年0.1%まで引き下げました。

無担保コール(翌日物)は前期末0.5%程度から当期末0.1%程度に水準を切り下げ推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、期後半に金利が大幅に低下しました。米10年国債利回りは期前半は4.0%前後で堅調に推移しましたが、その後米大手証券の経営破綻などをを受けて投資家のリスク回避傾向が高まる中、米FRB(連邦準備制度理事会)による利下げやインフレ圧力の低下を背景とした国債買いが優勢となり、当期末は2.663%となりました(前期末は3.410%)。

欧州債券市場は、期中頃に金利が大幅に低下しました。独10年国債利回りは7月に4.6%台まで上昇した後、世界的な金融市場の混乱に加え軟調な域内経済指標を受けて、低下の一途を辿り、当期末は2.994%となりました(前期末は3.899%)。

米FRBは、前期末年2.25%であったFF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を当期末までに年0.0~0.25%まで引き下げました。ECB(欧州中央銀行)は前期末年4.0%であった政策金利を7月に年4.25%としましたが、当期末までに年1.5%まで引き下げました。

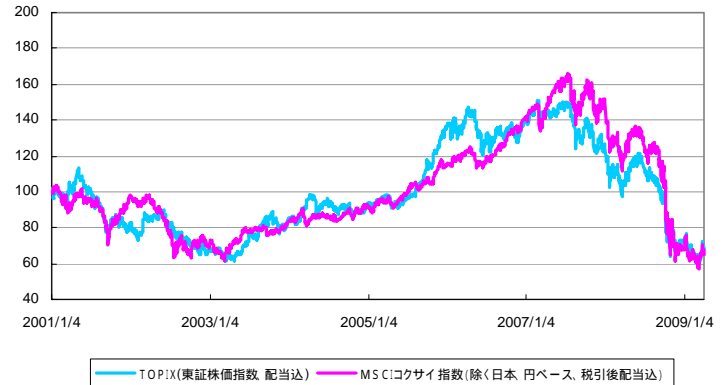
【外国為替市場】

米ドル/円相場は、インフレ懸念を背景に米FRBによる過度な利下げ観測が後退し、8月には1ドル=110円台まで円安が進行しました。9月以降は金融不安が再燃し、12月には13年ぶりに87円台まで円高が進行しました。期末にかけては、国内の景況感悪化を背景とした円売りから米ドルが戻す展開となりました。円は対ドルで前期末比1円96銭(+1.96%)円高ドル安の1ドル=98円23銭(前期末は1ドル=100円19銭)となりました。

ユーロ/円相場は、インフレ懸念を背景にECBによる利上げ観測が台頭し、7月には1ユーロ=169円台まで円安が進行しました。8月以降は欧州での景気後退の深刻化懸念やECBの大幅な利下げによる金利差縮小を受けて、急激に円高が進行しました。円は対ユーロで前期末比28円35銭(+17.92%)円高ユーロ安の1ユーロ=129円84銭(前期末は1ユーロ=158円19銭)となりました。

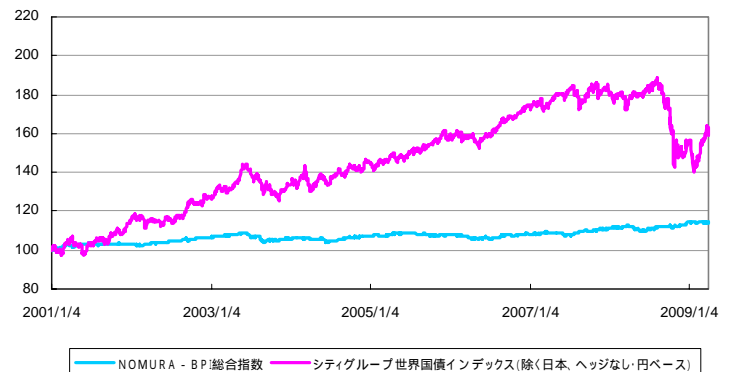
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

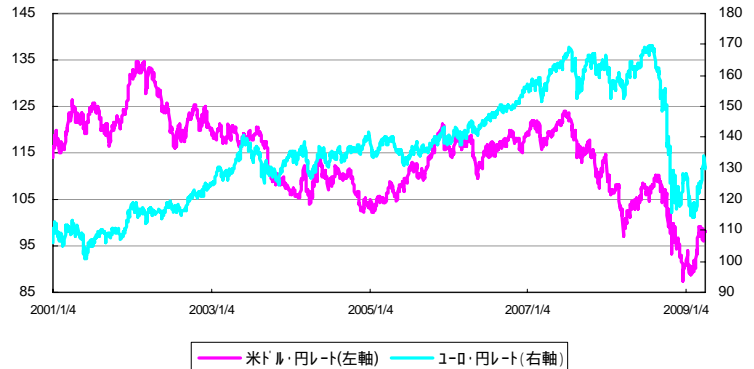


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

TEL:0120 375 193

アクサ生命 <http://www.axa.co.jp/life/>

【取扱者(生命保険募集人)】

中央三井信託銀行株式会社

保証金額付特別勘定年金特約（終身型）付変額個人年金保険（06） 特別勘定の現況（2008年度）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社である中央三井アセットマネジメント株式会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定「世界分散型40CM(512)」の運用方針および運用状況 [2009年3月末日現在]

特別勘定名	特別勘定の運用方針
世界分散型40CM(512)	当特別勘定は、主として国内外の株式および債券を主要投資対象とする投資信託を運用対象としており、次年度も今年度と同様の運用方針で運用します。
利用する投資信託	利用する投資信託の運用方針
中央三井VAポートフォリオ40 (適格機関投資家専用)	<p>当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ない、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドの基本配分比率は以下の通りとし、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。</p> <p>中央三井日本株式マザーファンド20%、中央三井日本債券マザーファンド30%、中央三井外国株式マザーファンド20%、中央三井外国債券マザーファンド30%*</p> <p>*当ファンドは、外貨建債券資産および中央三井外国債券マザーファンドの組入れに伴う実質組入外貨建資産の50%部分の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行いません。</p> <p>実際の資産配分については、基本配分比率に対して一定の変動許容幅を設け、その範囲内で調整を行います。</p> <p>当ファンドの主なリスク 株価変動リスク、金利変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリーリスク、為替リスク</p>

・「ファミリーファンド方式」とは、投資家から投資された資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資して、その実質的な運用はマザーファンドで行う仕組みのことをいいます。

特別勘定の運用コメント（2008年4月1日 - 2009年3月末日）

2008年度のユニット騰落率は19.40%となりました。特別勘定で使用している投資信託の株式資産については、世界的な景気悪化懸念と信用不安を背景とした投資家のリスク回避の動きから、大きく下落しました。日本・外国株式への資産配分比率が合わせて40%を占めることから、株式市場の推移がユニットプライスに影響を与えました。

特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



特別勘定のユニットプライス	騰落率 (%)
2009年3月末	過去1ヶ月 2.21
2008年12月末	過去3ヶ月 2.51
2008年9月末	過去6ヶ月 13.75
2008年6月末	過去1年 19.40
2008年3月末	過去3年 -
2007年12月末	設定来 26.57

- ・特別勘定のユニットプライスは、特別勘定の設定日(2007年8月8日)を100.00として計算しております。
- ・騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する今月末のユニットプライスの変動率を表しています。

特別勘定資産の残高および内訳

項目	世界分散型40CM(512)	
	金額(千円)	比率 (%)
その他有価証券	9,642,995	98.8
現預金・コールローン	118,064	1.2
その他	-	-
合計	9,761,059	100.0

- ・特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
- ・金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しております。

特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	126
有価証券売却益	-
有価証券評価益	-
有価証券償還益	-
為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	-
有価証券評価損	2,180,164
有価証券償還損	-
為替差損	-
その他費用及び損失	50,396
収支差計	2,230,433

[引受保険会社]
アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1 17 3
TEL:0120 375 193
アクサ生命「AXA」 http://www.axa.co.jp/life/

[取扱者(生命保険募集人)]
中央三井信託銀行株式会社

保証金額付特別勘定年金特約（終身型）付変額個人年金保険（06） 特別勘定の現況（2008年度）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社である中央三井アセットマネジメント株式会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定「世界分散型20CM(513)」の運用方針および運用状況 [2009年3月末日現在]

特別勘定名	特別勘定の運用方針
世界分散型20CM(513)	当特別勘定は、主として国内外の株式および債券を主要投資対象とする投資信託を運用対象としており、次年度も今年度と同様の運用方針で運用します。
利用する投資信託	利用する投資信託の運用方針
中央三井VAポートフォリオ20 (適格機関投資家専用)	<p>当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行い、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドの基本配分比率は以下の通りとし、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。</p> <p>中央三井日本株式マザーファンド10%、中央三井日本債券マザーファンド40%、中央三井外国株式マザーファンド10%、中央三井外国債券マザーファンド40%*</p> <p>*当ファンドは、外貨建債券資産および中央三井外国債券マザーファンドの組入れに伴う実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行います。</p> <p>実際の資産配分については、基本配分比率に対して一定の変動許容幅を設け、その範囲内で調整を行います。</p> <p>当ファンドの主なリスク 株価変動リスク、金利変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリーリスク、為替リスク</p>

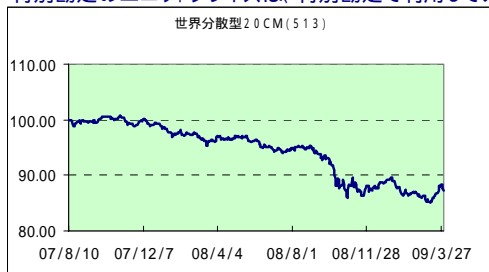
・「ファミリーファンド方式」とは、投資家から投資された資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資して、その実質的な運用はマザーファンドで行う仕組みのことをいいます。

特別勘定の運用コメント（2008年4月1日 - 2009年3月末日）

2008年度のユニット騰落率は9.23%となりました。特別勘定で使用している投資信託の債券資産については、世界的な景気悪化懸念と信用不安の拡大により、質への逃避から債券市場に資金が流入し、債券価格は上昇しました。株式資産については、世界的な景気悪化懸念と信用不安の拡大を背景とした投資家のリスク回避の動きから、大きく下落しました。日本・外国株式への資産配分比率は合わせて20%ですが、株式市場の大幅な下落がユニットプライスに影響を与えました。

特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



特別勘定のユニットプライス	騰落率(%)
2009年3月末	87.19 過去1ヶ月 1.05
2008年12月末	89.14 過去3ヶ月 2.19
2008年9月末	92.07 過去6ヶ月 5.30
2008年6月末	94.99 過去1年 9.23
2008年3月末	96.05 過去3年 -
2007年12月末	99.22 設定来 12.80

- ・特別勘定のユニットプライスは、特別勘定の設定日(2007年8月9日)を100.00として計算しております。
- ・騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する今月末のユニットプライスの変動率を表しています。

特別勘定資産の残高および内訳

項目	世界分散型20CM(513)	
	金額(千円)	比率(%)
その他有価証券	848,222	98.8
現預金・コールローン	9,925	1.2
その他	-	-
合計	858,148	100.0

- ・特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
- ・金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しております。

特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	10
有価証券売却益	-
有価証券評価益	-
有価証券償還益	-
為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	-
有価証券評価損	65,479
有価証券償還損	-
為替差損	-
その他費用及び損失	2,140
収支差計	67,608

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1 17 3
TEL:0120 375 193
アクサ生命 <http://www.axa.co.jp/life/>

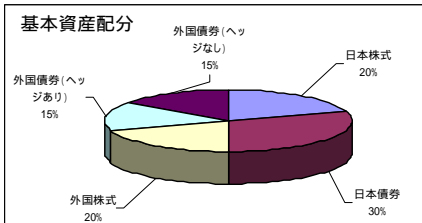
【取扱者(生命保険募集人)】
中央三井信託銀行株式会社

保証金額付特別勘定年金特約（終身型）付変額個人年金保険（06） 特別勘定の現況（2008年度）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社である中央三井アセットマネジメント株式会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、中央三井アセットマネジメント株式会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

<参考> 中央三井VAポートフォリオ40（適格機関投資家専用）の運用状況 [2009年3月末日現在]

ファンドの特色



当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ない、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。

当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドは、それぞれ以下のベンチマーク(運用成果を判断するうえで基準とする指数)と連動する投資成果を目標とする運用を行います。

中央三井日本株式マザーファンド: 「TOPIX(東証株価指数)」 1

1ただし、配当込み指数を使用しています。

中央三井日本債券マザーファンド: 「NOMURA - BPJ総合」

中央三井外国株式マザーファンド: 「MSCIコクサイ指数(円ベース)」 2

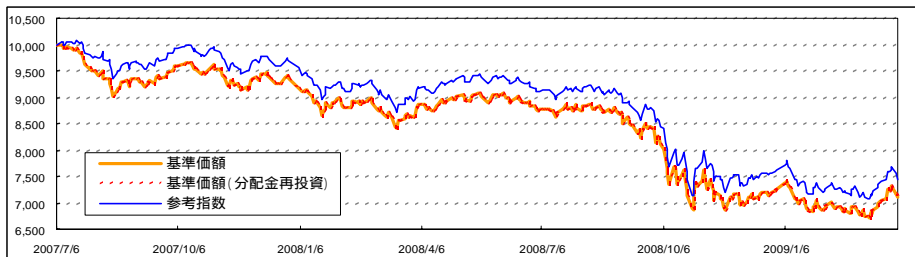
2ただし、配当込み指数を使用しています。

中央三井外国債券マザーファンド: 「シティグループ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)」 3

3'中央三井VAポートフォリオ40(適格機関投資家専用)'においては、中央三井外国債券マザーファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入外貨建資産の50%部分について原則として為替ヘッジを行いますので、上記合成指数の算出に際しては「シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)」も併せて使用します。

基準価額の推移

ここでは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額の推移等を記載しております。特別勘定のユニットプライスは、ファンドの基準価額とは異なります。



・グラフは、中央三井VAポートフォリオ40(適格機関投資家専用)の設定日(2007年7月9日)の前営業日を10,000として指数化しています。

・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率0.294%程度(税抜0.28%程度))控除後の値です。

・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

・参考指数は、TOPIX(東証株価指数)20%、NOMURA - BPJ総合30%、MSCIコクサイ指数(円ベース)20%、シティグループ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)15%、およびシティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)15%で組み合わせた合成指数です。

概況

	2009年3月31日	前月末	前月末比
基準価額	7,101円	6,933円	+168円
純資産総額(百万円)	22,154	19,560	+2,593

	基準価額	日付
設定来高値	9,991円	2007年7月9日
設定来安値	6,724円	2009年3月10日

資産構成

	基本配分比率	ファンドの資産構成
中央三井日本株式マザーファンド	20.0%	19.2%
中央三井日本債券マザーファンド	30.0%	30.9%
中央三井外国株式マザーファンド	20.0%	19.8%
中央三井外国債券マザーファンド(ヘッジあり)	15.0%	14.8%
中央三井外国債券マザーファンド(ヘッジなし)	15.0%	15.3%
コール・その他	0.0%	-0.0%
合計	100.0%	100.0%

・ファンドの資産構成は、純資産総額に対する比率です。

・計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことなどにより「コール・その他」の値がマイナスで表示されることがあります。

・REITの組み入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。

騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	+2.42%	-1.99%	-12.87%	-17.69%	-	-28.99%
参考指数	+1.64%	-2.51%	-13.06%	-16.89%	-	-25.72%
差	+0.78%	+0.52%	+0.18%	-0.80%	-	-3.27%

・ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

分配金実績(税引前)

・下記は、1万口当たりの税引前分配金実績です。

	直近期	2期前	3期前	4期前	5期前	6期前	設定来累計
決算日	2009年2月23日	2008年2月21日	-	-	-	-	-
分配金	0.00円	0.00円	-	-	-	-	0円

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

TEL:0120 375 193

アクサ生命 <http://www.axa.co.jp/life/>

【取扱者(生命保険募集人)】

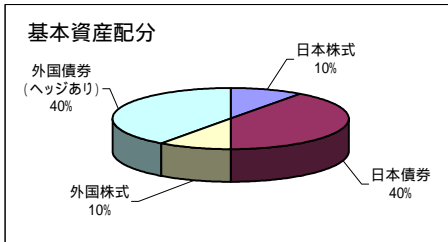
中央三井信託銀行株式会社

保証金額付特別勘定年金特約（終身型）付変額個人年金保険（06） 特別勘定の現況（2008年度）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社である中央三井アセットマネジメント株式会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、中央三井アセットマネジメント株式会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

<参考> 中央三井VAポートフォリオ20（適格機関投資家専用）の運用状況 [2009年3月末日現在]

ファンドの特色



当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ない、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。

当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドは、それぞれ以下のベンチマーク（運用成果を判断するうえで基準とする指数）と連動する投資成果を目標とする運用を行います。

中央三井日本株式マザーファンド：「TOPIX（東証株価指数）」 1

1ただし、配当込み指数を使用しています。

中央三井日本債券マザーファンド：「NOMURA - BP総合」

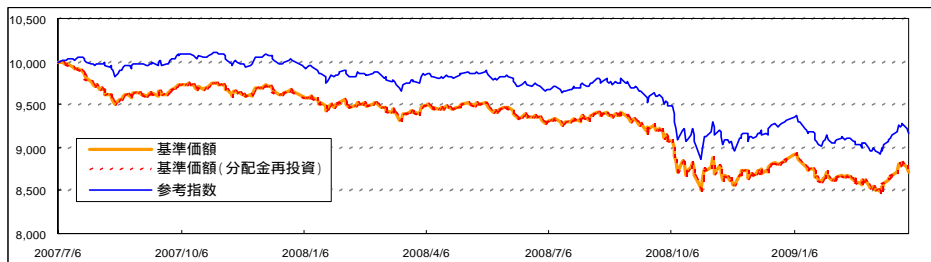
中央三井外国株式マザーファンド：「MSCIコクサイ指数(円ベース)」

中央三井外国債券マザーファンド：「シティグループ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)」 2

2'中央三井VAポートフォリオ20（適格機関投資家専用）」においては、中央三井外国債券マザーファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入れ外貨建資産について原則として為替ヘッジを行いますので、上記合成指数の算出に際しては「シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)」を使用します。

基準価額の推移

ここでは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額の推移等を記載しております。特別勘定のユニットプライスは、ファンドの基準価額とは異なります。



・グラフは、中央三井VAポートフォリオ20（適格機関投資家専用）の設定日（2007年7月9日）の前営業日を10,000として指数化しています。

・基準価額および基準価額（分配金再投資）は、信託報酬（純資産総額に対し、年率0.294%程度（税抜0.28%程度））控除後の値です。

・基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。

・参考指数は、TOPIX（東証株価指数）10%、NOMURA - BP総合40%、MSCIコクサイ指数(円ベース)10%、シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)40%で組み合わせた合成指数です。

概況

	2009年3月31日	前月末	前月末比
基準価額	8,722円	8,614円	+108円
純資産総額(百万円)	1,774	1,619	+156

	基準価額	日付
設定来高値	9,991円	2007年7月9日
設定来安値	8,489円	2009年3月10日

資産構成

	基本配分比率	ファンドの資産構成
中央三井日本株式マザーファンド	10.0%	9.6%
中央三井日本債券マザーファンド	40.0%	41.2%
中央三井外国株式マザーファンド	10.0%	9.9%
中央三井外国債券マザーファンド(ヘッジあり)	40.0%	39.4%
コール・その他	0.0%	-0.0%
合計	100.0%	100.0%

・ファンドの資産構成は、純資産総額に対する比率です。

・計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことなどにより「コール・その他」の値がマイナスで表示されることがあります。

・REITの組み入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。

騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	+1.25%	-1.65%	-4.25%	-7.14%	-	-12.78%
参考指数	+1.13%	-1.72%	-3.70%	-6.00%	-	-8.40%
差	+0.13%	+0.07%	-0.55%	-1.15%	-	-4.38%

・ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しております。また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

分配金実績（税引前）

・下記は、1万円当たりの税引前分配金実績です。

	直近期	2期前	3期前	4期前	5期前	6期前	設定来累計
決算日	2009年2月23日	2008年2月21日	-	-	-	-	-
分配金	0.00円	0.00円	-	-	-	-	0円

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

TEL:0120 375 193

アクサ生命 Axa -> http://www.axa.co.jp/life/

【取扱者(生命保険募集人)】

中央三井信託銀行株式会社

保証金額付特別勘定年金特約（終身型）付変額個人年金保険（06）のリスク及び諸費用について

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して国内外の株式・公社債等で行なっており、株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもとし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。

【諸費用について】

この保険では、「契約初期費用」、「保険契約管理費」、「運用関係費」の合計額をご負担いただきます。一般勘定で運用する年金の支払期間中には、年金管理費をご負担いただきます。

【ご契約時】

項目	費用	ご負担いただく時期
契約初期費用	ご契約の締結等に必要の費用 一時払保険料に対して 5.0%	特別勘定に繰り入れる際に、 一時払保険料から控除します。

【積立(運用)期間中および年金支払期間中】

項目	費用	ご負担いただく時期
保険契約管理費	既払年金累計金額と死亡一時金額の合計金額の最低保証、死亡給付金額の最低保証、災害死亡給付金額のお支払い、ならびに、ご契約の維持等に必要の費用 特別勘定の積立金額に対して 年率2.3%	積立金額に対して左記割合(率)を乗じた金額の1/365を、毎日、特別勘定の積立金額から控除します。
運用関係費	投資信託の信託報酬など、特別勘定の運用等に必要の費用 投資信託の純資産総額に対して 年率0.294%程度 (税抜0.28%程度)*	特別勘定にて利用する投資信託における純資産総額に対して左記割合(率)を乗じた金額の1/365を、毎日、投資信託の純資産総額から控除します。

*運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、お客様にご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客様はこれらの費用を間接的に負担することとなります。

*運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

【一般勘定で運用する年金の支払期間中】

年金の種類を変更した場合や「年金払特約(06)」により年金としてお受け取りいただく場合です。

項目	費用	ご負担いただく時期
年金管理費	年金のお支払いや管理等に必要な費用 年金額に対して 1.0%*	年金支払日に責任準備金から控除します。

*年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

【その他の留意事項について】

受取総額保証金額(終身型)

受取総額保証金額の最低保証は、年金を特別勘定終身年金でお受け取りいただく場合に限られます。特別勘定終身年金以外の方法でお受け取りいただく場合や、積立期間中にご契約を解約される場合、もしくは年金受取期間中に積立金額を一括でお受け取りいただく場合には、お受け取りになる金額が一時払保険料を下回る場合があります。